

# 先生の推し本 第13回

## ことばの学びが世界の対立を越える道をつくる

お茶の水女子大学に着任する前、韓国で日本語教育に携わっていた私にとって、日本語の教室は日本語を教え、学ぶ場であると同時に、過去を克服するための対話の場でもあった。過去を克服できずにいる日韓関係が続く中で、それでも日本語を学ぼうと朝早くから教室にやってくる韓国の学生たちとの交流を通し、言語教師として、自分にできることはないのかを模索し始め今日に至る。韓国はもちろん、ある時はドイツ・ポーランドを訪れ、またある時はアジアの近隣の国々などを訪ねながら、私なりに至った結論は、「平和のための対話教育学の構築」であった。ここで紹介する本は私がお茶の水女子大学に着任後、その答えを模索する中で出会った大切な本の一部である。なお、リストは1～3はドイツ、4～7は東アジアの過去の克服を扱ったもので、8はイスラエルとアラブ諸国との対話の実践、9～10は平和のための外国語教育に関するものです。



森山 新 先生

韓国の大学(高麗大学校、同徳女子大学校、弘益大学校、世宗大学校)等で研究、教育活動に携わり、2001年よりお茶の水女子大学留学生センター助教授に着任、その後2007年同大准教授、2011年より同大教授。

学部はグローバル文化学環・日本語教育、大学院は日本語教育に所属し研究・教育に携わる一方、長年、国際教育センターでお茶の水女子大学の国際化に尽力。

文学博士、教育学修士。

専門は応用言語学(日本語教育学、第二言語習得、認知言語学)。



図書館HPの  
企画展示ページはこちら

2024年12月17日～2025年2月末